

## 学校法人みどり学園

### 《平成 20 年度財務の概要》

平素はみどり学園の発展のためいろいろご支援ご協力ありがとうございます。また、本年度から大阪健康福祉短期大学もすべての学科に経常費補助金が助成され、一人前の大学として年度を終えることができました。多く関係者の皆様方からのご指導の賜物だと深く感謝しております。

さて、本みどり学園の平成 20 年度の財務の概要を報告いたします。

- 平成 20 年度は幼稚園教諭 2 級免許状も取得できる子ども福祉学科の新入生がほぼ定員充足しましたが、介護福祉学科 I 部および II 部の新入生は、残念ながら定足には至りませんでした。しかし、在籍者数は子ども福祉学科によって維持され、昨年に引き続き多くの学生で活気に満ちていました。
- 短期大学設置 7 年目に入った本年度は、幼稚園も含む全体で 112,987 千円の補助金収入と、特別寄付金 79,237 千円の入金によって、単年度消費収支差額が 19,099 千円の黒字になり、これまで自主財源を中心にがんばってきただけにまずはほっといたしました。今後の課題は、経常的な収入で経常的な支出をまかない、消費収支差額を黒字にすることです。
- 一方、経常的な収入では、介護福祉学科 I・II 部の学生数の未充足による授業料等の収入面での減収と、支出面では教育水準維持向上にともなう人件費の高比率によって、これまでの累計額でまだ 257,704 千円の消費支出超過という課題が残っています。大学としての教育および研究の向上を図りながら学生の確保に努めるとともに、すべての関係者の協力による省エネルギー及び無駄を無くす計画を進め、消費収入超過につなげる努力をしなければなりません。

これからの財務の課題としては昨年と同様に、消費収支における人件費比率の適正化、借入金の計画的返済、及び各種補助活動事業の拡充、施設設備の永続使用のための減価償却額の累計額にふさわしい引当準備金の確保に向け、定員の完全充足と学校園の効率的運営に努める所存です。

2009年6月1日

学校法人みどり学園  
理事長 平尾達夫

## 《平成 20 年度計算書類の説明》

### 1. 収入について

- ① 本年度も大きな施設設備関係の借入金などの収入はなく、また学生生徒納付金については、入学生の未充足による授業料、入学金等が減収でしたが、寄付金収入が大きく昨年度に比べると全体としては大きく収入が増えました。しかし、各種経理分析の帰属収入合計として使用するには、経常的な帰属収入による金額の方が正確になると思います。
- ② 昨年度末の短期借入金残高 97,900 千円は本年度寄付金や短期貸付金と整理・精算し、長期借入金の次年度返済額 15,550 千円のみになりました。

### 2. 支出について

- ① 定員未充足による納付金の減収によって、人件費支出 363,376 千円は帰属収入合計の 64.5% (昨年 72.0%、一昨年 80.1%) になりましたが、昨年並みの寄付金とした場合の経常収入に対する割合は 70.0% であり昨年より若干改善したとはいえ、消費支出超過の主因となっています。これは本来の教職員体制に比する学生数が減員したためであり、どのようにしてバランスをとるかは、財政論のみでは考えられないところです。
- ② 教育研究経費 111,221 千円は帰属収入合計の 19.7% (寄付金を昨年度と同額とした場合 21.4%) になりましたが、金額では昨年を約 470 万円ほど上回り、少人数教育による行き届いた教育の一端を示しております。
- ③ 当該年度の減価償却額の合計は 42,399 千円であり (減価償却累計額 291,261 千円)、毎年準備していかなければならない減価償却引当特定預金の額もほぼ同額の備蓄が求められています。
- ④ 今年度末の退職給与引当金は 3,672 円、退職金財団の支給額を補填しています。

### 3. 収支差額について

- ① 以上の結果、当年度消費収支差額は 19,099 千円 (昨年△56,558 千円) となりましたがこれには帰属収入の増加に伴う 4 号基本金 6,000 千円の組み入れが含まれています。昨年度からの繰越消費支出超過額 276,804 千円と合わせて次年度繰越消費収支超過額は 257,705 千円となり、今後の課題となっています。
- ② 平成 21 年度の介護福祉学科の定員充足が課題になっていることは、これからの日本の福祉全体の問題として同時に解決されなければなりません。高齢者が安心して暮らすことのできる社会に不可欠な専門職の確保は今後保健制度の改善抜きにはありません。新しい政権に期待するところです。